

「リニア中央新幹線」計画について、シリーズでお伝えしています。今月は、先月に引き続き、市内各地区で開催した車座懇談会（12カ所、約290人参加）についてお伝えします。

懇談会では、市民の皆さまから、リニアの波及効果を生かすためのまちづくりに関して、様々なご意見をいただきました。

濃飛横断自動車道や新駅周辺へのアクセス道路などの道路網整備の必要性に関するご意見や、まちづくりを進めるにあたっては、地域にあった戦略を立てること、地域の魅力の発掘を進めること、早めに取り組むこと、行政と地域が連携して取り組み市民の意見を反映していくこと、充分に情報提供を行うことなどのご意見をいただきました。

いただいた貴重なご意見のうち一部を紹介します。（下記参照）

今後の取り組み

市では、リニアを見据えたまちづくりをどのように進め、中津川市を将来どのようなまちにするべきか、市民の皆さまとともにその方向性を考えるため、来年度、全市的な検討組織を立ち上げ、検討を始める予定です。

今後の取り組みに関しまして、随時、お知らせいたしますので、リニアを見据えたまちづくりにつきまして、市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

懇談会でいただいたまちづくりに関する主なご意見

道路・アクセス整備に関して	- 中津川市西部は交通アクセスが弱いのでしっかり取り組む必要がある。放射状に交通アクセスが整備されているのがあるべき姿と思う。 - リニアの効果が発揮できるか出来ないかは道路が全てなので、地域のためになるように考えて欲しい。 - 地域にとって根本的に大事なものは道路網ではないかと思う。濃飛横断自動車道の整備を国、県に働きかけるチャンスであると思う。
新駅や駅周辺、車両基地整備に関して	- 駅周辺整備は、過大にならないように乗降客の想定をしっかりと行い実施してほしい。 - 車両基地には70haの土地が必要とされており、極めて大きい課題を突き付けられている。メリットだけでなくデメリットも考えた視点で臨んでほしい。 - 新幹線駅をみると、活性化した地域と活性化に失敗した地域がある。新駅は、在来線駅と結合させて利便性を高めてほしい。
まちづくりの検討の進め方に関して	- 具体的にどういう計画をどう進めるのかについて早めに固めてほしい。その中で地域の住民も取り組めると思う。 - J R 東海側の戦略でなく、地域にあった戦略が重要。市がしっかりリーダーシップをとる必要がある。市民レベルの意見を聞くことが大事。そうした機会を持って進めてほしい。 - まちづくりを進めるにあたっては、実際に中津川で働く若い人たちの意見を集約する場が必要と考える。
具体的な活性化方策に関して	- リニアはひとつの道具であって、それで全てが解決する話ではない。今から東京との交流をどんどん増やして、リニア開業時にそれが爆発するようにしないといけない。 - まちづくりがうまくいけば人が住んでくれる。将来人口を増やすまちづくりをどうするかビジョンをしっかりと、大きな夢を持った形のまちづくりを考えていかなければならない。 - 中津川市周辺で、魅力のあるものを発掘することが一番に求められる。全国に売り出していけるものはいろいろあるはず。そういったものを探し出して、全国レベルの商品にすることが大切である。
その他	- 首都機能移転の話も復活してくるのではと夢が見られる。そう考えれば将来性はあるのかなと思う。 - リニアと聞いて「東京へ行けるぞ!」と思った。教育や医療等は東京を利用することが可能になる。中津川全部を整備しなくても、東京を利用するという観点で物事を見たほうが良いのではないか。